

国立大学図書館の現状と課題

東京大学附属図書館事務部長

木下 聡

1. 国立大学図書館の現状 ～学術情報基盤実態調査から見えてくる課題～

- ・外国雑誌・電子ジャーナル購入に係る経費の確保 <蔵書>
- ・学生の自学自習のための支援 <場>
- ・専門性を有する人材の確保、現職職員の育成、キャリア・パスの確保 <人材>

2. 国立大学図書館のあるべき姿 ～国立大学図書館協会のビジョンと活動～

- ・国立大学図書館協会の概要
- ・国立大学図書館協会ビジョン 2025 (2021年6月)
 - ・3つの重点領域： 知の共有、知の創出、知の媒介
- ・大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議
 - ・大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)
 - ・これからの学術情報システム構築検討委員会
 - ・オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)

3. 国立大学図書館の使命 ～大学・国の方針との関係を中心に～

- ・教育基本法、学校教育法：大学の機能
- ・国立大学法人法：中期目標と中期計画
 - ・中期目標・中期計画の具体例：「図書館」はどう書き込まれているか
- ・大学のビジョン
- ・国の政策動向
 - ・文部科学省：中央教育審議会、科学技術・学術審議会 情報委員会
 - ・内閣府：総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI)
- ・文部科学省と大学図書館

4. 電子ジャーナルをめぐる問題 <蔵書>の課題

- ・国立大学図書館協会のプレスリリース (2018年1月)
- ・価格上昇の推移、値上がり要因、ビッグディール
- ・電子ジャーナル経費の実際：圧迫される図書購入費
- ・海外の動向
 - ・OA出版 (SCOAP3、Projekt DEAL、PlanS)
 - ・OA2020：購読モデルからOA出版モデルへの移行

- ・我が国の対応
 - ・JUSTICE：0A2020 ロードマップ公表（2019年3月）
 - ・文部科学省：ジャーナル問題に関する検討会（2014年8月）、ジャーナル問題検討部会（2021年2月）
 - ・日本学術会議：学術フォーラム、提言（2020年9月）

5. 学生の自学自習のための支援 <場>の課題

- ・アクティブ・ラーニング・スペース（ラーニング・コモンズ）の整備状況
- ・文部科学省：「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」（2013年8月）

※東京大学の事例

- ・総合図書館の新図書館計画
- ・別館ライブラリープラザをアクティブ・ラーニング空間としてオープン（2018年10月）

6. オープンサイエンス 新たな課題

- ・内閣府：「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について」（2015年3月）
- ・文部科学省：「学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）」（2016年2月）
- ・オープンサイエンスに関する動向
- ・大学図書館とオープンサイエンス
 - ・国立大学図書館協会：プレスリリース（2019年3月）、機関リポジトリの再定義（2019年5月）、研究集会（2019年6月）、行動計画（2019年12月）
 - ・国立情報学研究所：研究データ基盤の整備、教材の作成

※東京大学の事例

- ・学術資産等アーカイブズ構築事業

7. 人材の確保と育成 <人材>の課題

- ・採用とキャリア・パスの現状と課題
- ・職員数、採用数の推移：規模の縮小、業務委託の増加
- ・新しい人材：これからの大学図書館職員に必要とされるもの

8. おわりに